

地域の今と未来をつなぐ教育支援活動コーディネーター等研修

## 「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」

日時:平成30年10月18日(木) 会場:青森県総合社会教育センター 受講者数:233名

青森県の未来を担う人財である子どもたちが心豊かでたくましく成長するためには、学校、家庭、地域がそれぞれの役割を果たしつつ、教職員、保護者、地域住民が連携・協働し、社会全体で子どもたちを育むことが大切です。そこで、相互に理解し、人材育成を進め、キャリア教育の充実・発展に資するよう、「地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム」を開催しました。

本フォーラムは、青森県高等学校 PTA 連合会の進路指導研修会と連携して、あおもりキャリア教育応援企業表彰、パネル展示交流及び基調講演の構成で開催しました。

「基調講演」の講師には、大正大学 地域構想研究所 教授 浦崎 太郎 氏をお迎えし、「いま 高校を地域に埋め戻すとき～高校で行う地域再生×高校キャリア教育～」と題し、地域を支える人財を育てるため、高校生が地域課題に積極的に関わることの必要性などについて御講義いただきました。



講師 浦崎 太郎 氏

### 1 「あおもりキャリア教育応援企業」表彰式

この表彰は、学校への出前授業やインターンシップ受入等、教育支援活動に熱心に取り組んでいる県内の企業・事業所等を表彰することにより、教育支援活動が今まで以上に積極的に行われることをめざして平成26年度から始めたものです。

県内各地の企業・事業所等からの御応募の中から、「あおもりキャリア教育応援企業表彰審査委員会」による審査の結果、今年度は、下記の14の企業・事業所が表彰されました。



表彰式の様子

No.	事業所名	市町村名	No.	事業所名	市町村名
1	有限会社 フォトシバタ	青森市	8	有限会社 ササキ美容院	むつ市
2	ササキ石油販売株式会社	十和田市	9	社会福祉法人美土里会 特別養護老人ホーム美土里荘	七戸町
3	北斗建設株式会社	青森市	10	鉄工房アール	青森市
4	下北地方森林組合	むつ市	11	白神山地ビジターセンター	西目屋村
5	株式会社 ジュネス美容室	青森市	12	弘前ガス株式会社	弘前市
6	日米友好クラブ	三沢市	13	社会福祉法人嶽陽会 特別養護老人ホーム松山荘	弘前市
7	イトーヨーカドー青森店	青森市	14	株式会社 西村組	弘前市

## 2 表彰企業による学校支援パネル展示交流



表彰された企業による特徴ある取組について、パネルの展示を用いて紹介していただきました。また、直接企業の方と交流できる機会とし、具体的な活動内容について参加者より質問を受けたり、児童・生徒の様子について情報交換をいたしました。



## 3 基調講演 「いま 高校を地域に埋め戻すとき～高校で行う地域再生×高校キャリア教育～」

講師 大正大学 地域構想研究所 地域創生学部 教授 浦崎 太郎 氏

【講演要旨抜粋】

**近年どんな高校生が育っているか？** 少子化により地域の担い手は減少し、コミュニティとの関わりは希薄になってきている。勉強することに対し、この勉強が自分の将来につながっているのだろうか不安や迷いをもつ高校生もいる。そのような中、キャリア教育に取り組みせることで、中には、現場・社会に働く方の思いや優しさ、厳しさを知り、夢や目標を鮮明にする生徒もいる。地方（とくに過疎地）では、生徒を地域と関わらせる高校が飛躍的に増加している。この流れは、地方都市や首都圏の進学校にも拡大し、質的変化が起こっていると言える。

**日本の教育は今どこに向かっているか？** 今、日本の教育政策は、予測不可能な未来に対応するために、社会の変化に主体的に向き合って関わり合い、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、より良い社会と幸福な人生を自ら創り出していくという、新たな学校文化の形成を求めている。また、中央教育審議会の報告にもある「社会に開かれた教育課程」の実現のため、社会や世界の状況を幅広く視野に入れ、より良い学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を持ち、教育課程を介してその目標を社会と共有していくことが重要である。

**地域連携は高大接続とどう絡んでいるか？** 新しいしい大学入試では、学んでいく力を見るため、例えば地域活動に取り組む高校生に対し、「どんな活動を通して、何をどのように学び、どう成長したのか」を、e-ポートフォリオ（活動記録を電子化したもの）を活用して評価する。よってこのことから、地域連携は高大接続と密接に絡んでいると言える。

**産業人材の育成と採用はどう変わるのか？** 高校生を地域課題に取り組ませる事によって、課題解決能力の向上や、回帰することによる高い地域創生力が見込まれる。

**社会教育が果たしうる役割は何か？** どんな地域を創り出すために、どんな若者を、どのように育てていけばよいのか等、教職員も含めた地域の大人の「対話」する力が求められている。高校生が地域で学ぶ受け皿の創出のために、社会教育が果たす役割なす働きは大きい。学びの場の不足や費用の確保など課題はあるが、学校が児童・生徒を地域に送り出し、地域が迎えることは、地元企業の人材採用の難しさが解消されることから長期的視点では採算が合うものである。地域には教育資源が豊富である。是非、それらを活用し、即戦力となる高校生を育ててもらいたい。



## 4 受講者の声

- ・若者、高校生や中学生を地域活動に興味・関心を持たせるためには、我々大人、教育する側が今以上に地元を知ることの必要性を痛感した。
- ・難しいと思っていた『探究活動』、『主体的・対話的で深い学び』にも方法があることを実践例から紹介され、考え方を改めなければならないと感じた。自分が関わる学校教育の中で、できることを提案し、実行してみたいと思った。
- ・現在の高校教育の方向性が理解できた。地域企業として、社員採用に関しても考えを改める必要がある。若者の言動に希望を持ちたいし、学校にも関わっていきたいと感じた。

